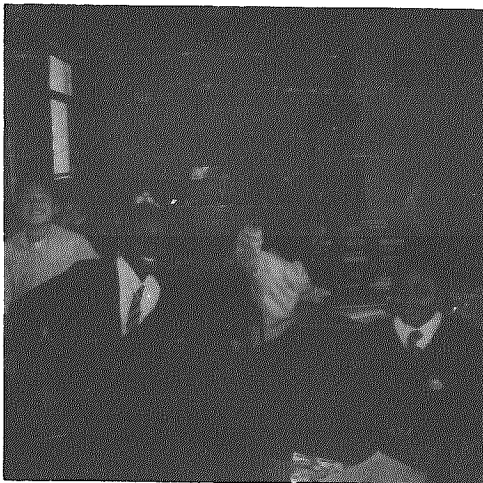


# 「協調性のある人間形成(小学校)」の教育方針に感銘

## 連合PTA海外視察研修報告 ③



小学校PTA 会長 佐藤 正明

連合PTA役員七名で、教育先進国、英国ロンドンの小・中学校を訪問し、教育制度や、PTA活動について視察研修を致しました。日本の小学校にあたるセント・アンズ・プライマリ・スクールでは、三才から十一才までの子供達の元気な遊びや勉強をしている様子は、何ら日本と変わらなく子供達の世界は共通だと改めて感じさせられました。

しかしながら、八五%の子供がイギリス以外(インド・パキスタン・アフリカ)の外国人であり、子供達の家庭の四〇%が失業者である小学校です。

PTA活動では、学級から一人の役員を選出し、学祭やスポーツデーの世話や六週間に一回の総会に参加し奉仕活動などを行っています。

特に、それぞれのお国自慢や童話、民話の紹介など他国の子供達に話をする機会もあり、積極的に学校に協力しています。

学校の教育方針は、「他人を思いやり、人間としての優しさ、協調性、個性を生かすこと」に重点をおくと女性校長先生は、にこやかに話されました。

子供達の大半は黒人多く、その瞳の輝きや愛しさには国境はなく、多少のいじめなどは学級で厳しく監視し、反省を求め子供達が良いことをした場合は、「グッドニュースレター」として家庭に持たせ、家庭と学校の一体性を教育しております。

次に訪問した学校も女性校長先生の中、高校であるビムリコ・セカンダリースクールで一九七〇年に建設し建築賞を受賞した探光豊かな学校でした。

この学校の五〇%はイギリス以外の外国人が学び五〇の原語を話す学校です。このようなことからPTA会長は、教師と父兄のかけ橋の役割をしており、生徒の不登校などには教師が家庭に向かい相談し、遅れた勉強を教えてくださいました。教育方針は「個人、人間としての自覚を持つ教育」を掲げております。

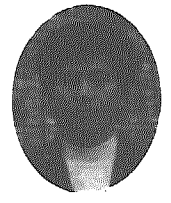
放課後のクラブ活動は、三時三〇分から九時三〇分まで大人のユースクラブと一緒に汗を流してあります。

両校を訪問し子供達に接して感じたことは、白人の国イギリスと違っていたのに大半が黒人であり、多民族多国籍でありながら一緒に学び、遊び、のびのびとしていることでありました。

そうして二人の女性校長先生の共通性は、「人の心」を大切にしている教育方針と、その指導性と抱擁力であり、それは、大英帝国の歴史、文化の重厚さを感じました。

今、地球上のどこかで、経済戦争や宗教紛争、そして局地戦争が発生してしまいが、子供達や教育の現場では国境はなく世界は一つです。

世界的視野に立ち、村内の多くの青少年が、海外研修や、国際交流に参加出来る機会を望むものです。幸い、今回、村の人材育成事業で連合PTA役員七名で英国での学校視察研修が実現したことは、村当局はじめ関係各位に対して深く感謝申し上げます。



小学校PTA 副会長 今井 勝美

PTA海外研修について感じたことや問題点を少し述べたいと思います。

今回の研修は、私にとって初めてであり大変光栄でした。最初に訪問した小学校で校長先生と教育問題やPTAのあり方・イギリスの教育事情について討論をしました。

また、校内を見学してみて、日本の子供達より元気がよく笑顔がたえず、活発な子供達が多いなあと感じました。

この小学校は、規模の小さい学校で多国籍の子供達も多く占め、学校としても子供達に人種の違いなどを感ぜさせない教育を行っている、先生方もとても立派に感じました。

次に中学校を訪問しました。学校に着き、子供達に会った時は、私達より背や体が大きく、少しびっぴりしたのと少し怖いような感じがしましたが、子供は子供で明るい子供達の挨拶も笑顔で活発で生き生きとして元気な子供が多く見受けられました。

私達は、校長室で就職問題や登校拒否、PTAのあり方など一時間くらい討論して、校内を見学してみましたが、私達の学校との違いが少しあると思います。体育館やグラウンドが狭いと感じられ全体に子供達も日本と比べると大人っぽく見えました。

研修が終わったあと、パリの市内観光やベルサイユ宮殿、エッフェル塔、ルーブル博物館などヨーロッパの歴史と文化もたくさん学びとることができ、とても感激しております。

こういう機会がありましたら、また、是非参加させていただきたいと思っております。今回の研修旅行を終えて日本の教育のあり方、PTA活動について、改めて考えさせられることがたくさんあり大変勉強になり、こういう機会を与えていただいた村当局はじめ関係者に厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。



小学校PTA 副会長 阿部 浩

ロンドンの町の大きさは、概ね札幌の町と同じくらい大きであり、町を歩いてみると歴史を感じさせる建物が多く、そのほとんどが石造り(石灰岩)であり、重厚さを感じられました。

町を行きかう人々もヨーロッパ系はもちろん、中東アジア、アフリカなど世界各国の人々が多く、肌の色や服装もそれぞれであり、日本とは随分違う点に驚きました。

最初にロンドン郊外の私立の小学校「セントアンズ・プライマリ・スクール」を訪ねました。

この小学校は、ロンドンの比較的労働者階級が多く住んでいる区域であり、外国人も多く児童の約八五%が外国人という日本では、とても考えられない環境の中にいる小学校でした。

児童の年齢は、三才から十一才までであり、保育園と小学校低学年が対象となっています。

日本と異なる点は、他民族の児童が多く、このように小さい頃から遊んでいれば自然に外国人に対する偏見や差別意識もなくなるの

ではないかと思いました。最初に教室に入り驚いたのは、机の配置が日本の教室の場合と全く違っていた点です。

日本のように各自が机を持っていてではなく、五人から十人が共通のテーブルを囲んで授業を受けていました。

これは、教わる側の児童の気持ちに配慮することから生まれた配慮かと思われ

ます。教室の中も比較的自由な雰囲気であり、児童の顔も明るく伸び伸びとしており、学園生活を十分楽しんでるようでした。

最後に校長先生に教育方針と現在かかえている問題について尋ねてみました。教育方針は、「尊敬を促す人間、協調性のある人間形成」を目指しているとのことでした。

一般的な言葉ですが、前述したように外国の児童が八五%もいる環境の中で文化や習慣、宗教が異なる多くの児童を明るく育てていくという現実をみて、その言葉や聞きと大変な重みを感じました。

次に訪れたのは、ロンドンの中心地にある進学校でした。この中学校の教育方針は、個人として自分の考えをしっかりと発表し、個性を生かす

ことを目標としているとのことでした。

校内の生徒の感じも明るく伸び伸びとしているが、どこか進学校の持っている緊張感も感じられました。

その中で、いじめや不登校については、この学校でも例外でないらしく、教師と親が真剣に取り組んでいるとのことでした。

ところで、日本も最近多くの外国人が訪れるようになり、少しづつではあります

が、ヨーロッパやアメリカと同じような環境になってきています。このような状況の中で私達の意識も変えていかなければ、これからの国際社会の一員として残り残されるような感じがしました。

最後に、連合PTAの研修旅行に村からご協力いただきましたことに感謝申し上げます。

連合PTA海外研修視察報告を一月号から三月号に分けて皆さんにお知らせしましたが、この号で終了しました。連合PTAでは、教師や親が変われば子供も変わるといふことで、教師、親、子供が一体となって、活動を推進しています。

# アメリカ農業視察記 ①

## 有限会社AFカガヤキ

代表取締役 立川 幸一

一月二十七日(木)から二月三日(木)にかけて全国農業会議所主催のアメリカ農業事情視察があり、村から次の四名の方々が参加しました。

- ・参加者
- 中村 才一(横越)
- 立川 幸一(沢海)
- 伊藤 幹夫(沢海)
- 宮沢 弘昭(小杉)

・目的  
アメリカにおける米作農家の交流や流通機構の視察

・視察先  
カリフォルニア州ハワイ  
この視察の内容については三月号と四月号にわたり、皆さんにお知らせします。

四月号については「カリフォルニア米」を掲載する予定にしています。

と協力を得まして当村より四名、県より六名、全国から五十名の一行に加えてもらうことが出来ました。

サンフランシスコは、想像どおりの広大な土地と抜けるような青空が広がるまさに大陸と言った印象でした。早速、私達は市内のスーパーマーケットの視察に出かけました。日系人が多い地区の店と言うこともあり米をはじめ様々な果物、肉や野菜の中にも長芋までありにはびっくりしました。

短い期間ではありましたがアメリカの大地に自分の足で立ち、自分の目で見、広い田畑や工夫してある機械に感心し、農業者との話の中で経営者としての自立した考えに共感を覚えたり大変有意義な研修でした。私もこの貴重な体験を生かして、明日の経営に役立てたいと思っております。

最後に今回の事業と支援して下さりました関係者各位に厚くお礼申し上げます。



子供の頃からテレビの西部劇を見、また、「カリフォルニアの青い空」の曲を聞きながら育った私には、一度は訪れて見たい国としてアメリカへの強いあこがれがありました。

昨年十一月に新聞で全国農業会議所主催のアメリカ農業事情視察があるのを知って、ぜひとも行って見たいと思いました。幸い村や私の所属している農業経営青年会議の理解